

はじめに

小規模な調査であったが案外に手こずった。ひとつはさして遠くないはずの遺跡の足まわりがひどく悪かったことによる。とてつもなく運転間隔の開いたバスで乗り継いで、その先は機器を担いで歩かねばならぬ。幸い、この調査の依頼主である熊本市史編纂委員会もそのことを認めてタクシーを奮発してくれた。さらにはないことで、お陰で疲労はその分だけ少なくてすんだ。

手こずったもうひとつの理由は、この窯の構造がもともと厳格さを欠いたものであった上に後世の攪乱や内部の崩落がひどく、作業が晦澁を極めたことによる。窯が小さいので使用段階毎の層はいずれも薄く、それを削り込んで仕事を続けているので実に錯雑した様相を呈していた。調査は日数を喰い、依頼主の側も予想外の出費に驚いたようだ。この間、庶務一切を担当された事務局の小田大道氏の御心労はなかなかであったろう。まずもって謝意を表したい。

ところで調査の時期を二度とも年度変わりの頃に置いたのは遺跡のあたりが蝮の多い地域であったからである。蛇の出ない酷寒の頃は講義の花盛りであるので、せめてその動きの鈍いうちに作業を終わろうとした。要は事故を慮ったわけで、無事故は書くに及ばぬ当然のことながら、責任者としてはどなたかに報告して気を休めたい。

お世話になった方々としては編纂委員会の原始・古代専門部会部会長の原口長之氏をはじめとする委員会の方々は勿論、地もとの野田哲也氏等の御援助も忘れ難い。甲元助教授は瓦にあまり強くない私に代って何度も現場に立ってくれたし、この一帯のいわば第一次の調査を行った三島格氏も指導に加わって下さった。中でも乙益重隆先生の御指導は、学生たちの胸に残るものであった。即答できぬものについては後日私に書信を給わり、学生たちへの伝達を申しつけられた。当研究室学生への最後の御垂訓であったわけである。

調査の成果は巻末の「まとめ」に挙げてあるのでそちらにゆずるが、調査の意義は、小さな遺跡なのに研究の詰めがなされぬままであった当遺跡の問題に一応の区切りをつけた点にある。肥後は大きな地域であるだけに、当遺跡と同じように最後の詰めがなされぬままの遺跡が沢山ある。この調査がそれらの詰めを加速させるものであれば、その成果は案外に大きかったということになるだろう。

1991年6月1日

白木原和美

例 言

- 本書は熊本県熊本市長嶺町神園所在の神園山瓦窯址の調査報告概要である。
- 調査は新熊本市史編纂事業に伴うもので、熊本大学文学部考古学研究室がこれを担当した。
- 測量調査は1989年3月1日～10日、および4月3日～10日まで行い、発掘調査は1990年3月8日～27日、および4月5・6日にかけて行った。
- 本書の編集は岩崎・山下が行った。
- 調査参加者は以下の通りである。

《測量調査》

白木原和美 藤崎周太郎（大学院2年次生） 菊原潤一（4年次生） 新谷晶子
森由紀子（以上2年次生）

《発掘調査》

白木原和美 岩崎充宏 山下志保（大学院1年次生） 新谷晶子 村上智恵子
森由紀子（以上3年次生） 市川浩文 田中聡一（以上2年次生）

本文目次

	文 責
一、遺跡の位置と環境…………… 2	（山下）
二、調査の目的と経過…………… 4	（山下）
三、遺構	
1. 1号窯の調査…………… 6	（山下・新谷）
2. 2号窯の調査……………12	（村上・森・山下）
四、出土遺物……………20	（市川・田中）
五、考察……………36	（市川・田中・岩崎）
六、まとめ……………40	（山下・岩崎）

挿図・図版目次

挿図目次

第1図	神園山瓦窯址周辺遺跡分布図	3
第2図	神園山瓦窯址周辺地形測量図	5
第3図	1号窯掘り上がり図	8
第4図	1号窯土層断面図	9～10
第5図	1号窯X層上面瓦検出状況平面図	11
第6図	2号窯掘り上がり図	14
第7図	2号窯土層断面図	15～16
第8図	2号窯第2・3次焚口部	19
第9図	出土遺物実測図(1)	21
第10図	出土遺物実測図(2)	23
第11図	出土遺物実測図(3)	24
第12図	出土遺物実測図(4)	25
第13図	出土遺物実測図(5)	27
第14図	出土遺物実測図(6)	29
第15図	出土遺物実測図(7)	31
第16図	出土遺物実測図(8)	33
第17図	出土遺物実測図(9)	35

図版目次

1 上下	神園山瓦窯址近景	8	出土瓦
2 上	1号窯掘り上がり	9	出土瓦
下	1号窯X層上面瓦出土状況	10	出土瓦
3 上	1号窯B-1区南西壁土層断面	11	出土瓦
下	1号窯青銅製品出土状況	12	出土瓦
4 上下	2号窯第3次焚口部	13	出土瓦
5 上	2号窯第1次焚口部	14上	出土瓦
下	2号窯A・B-1区北西壁土層断面	下	その他の出土遺物
6 上	2号窯A・B-1区南東壁土層断面	15	瓦製作技法
下	2号窯B-1区南西壁土層断面		
7 上	2号窯23層上面検出状況		
下	2号窯A-2区27・34層瓦出土状況		